

ガンコ親父の

松次郎は、梅雨の間も学からもらったジョギングシューズを履いて走った。おかげで以前より腹回りが細くなったような気がする。今年の健康診断の血液検査が楽しみだ。高かった中性脂肪値も下がっているだろう。

これまでは自分の健康など気にしたことはなく、「生まれてくる孫のためにも、ずっと健康で長生きしてくださいネ」という花菜からの一言がなかったら、面倒なジョギングなんかするわけがなかった。



奄美黒糖焼酎

こうやって、自分の身体について前向きになれたのも、学と花菜の二人のおかげだ。そういえば、彼らの結婚式は去年の六月だった。あれから一年。なにかお祝いでもしてあげなくては、と松次郎は思った。

「結婚式からもうすぐ一年ね」と花菜は学に言った。学は式の終わりに「オレは世界一の幸せ者だ」とマイクを握りしめ、涙を流しながら何度も何度も絶叫した。松次郎の姿を思い浮かべた。「あれ、試合後のプロレスラーの興奮したセリフみたいだったな。オレ、めっちゃ恥ずかしかったよ」と学は言った。

花菜は自分の生き方のスタイルを変えようとはしない松次郎が大好きだった。その頑固さは「人を思いやる」大切なもので、多少は回りの空気を読めないところがあっても、それは愛嬌だと思えた。「この一年もすぐお世話になったし、お父さん達と一緒に結婚一周年のパーティーでもしようか？」と花菜は学に同意を求めた。花菜の「おうちパーティー」の提案に、松次郎と妻の貴代は大賛成だった。学は花菜に言われて、松次郎夫婦への感謝のプレゼントを探し始めたが、決めるのが難しかった。そうこうしているうちに、パーティーの日はやって来た。

常圧蒸留

松次郎はテーブルに並ぶローストビーフや唐揚げに、まるで小学生のように喜んだ。「こうやって、無事に結婚一周年を迎えられたのも、お義父さんやお義母さんのおかげです。ありがとうございます。」「と花菜はお礼を言った。「二人とも飲むの好きだからこれを」と二本の黒糖焼酎を手渡した。学は「しまっちゃん伝蔵は今年の全国酒類コンクールで二位に入賞したんだって。喜界島は今年もモンドセレクション金賞を受賞したそうぞ、今日の酒にはピッタリだろ？」と聞いた。

昔ながらの手造り
こだわり焼酎
喜界島の豊饒な大地の恵と豊かな自然の中で、百年の伝統を受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゃん伝蔵」黒糖焼酎の味を全国に押し出す昔ながらのコクのある味と香りです。

松次郎は「ご機嫌だった。酒をぐいと流し込むと、よし、今日のおめでたい出し物だと言ってガバツと立ち上がって、服を脱ぎ始めた。」「オ、オヤジ、なにするんだよー」学は焦った。

松次郎は海パン一枚になって、取り出した虎のマスクをかぶった。そしてカラオケマイクを握りしめて叫んだ。「おう、お前らよく聴いとけよ。何回も言わないからな。いいか、いくぞー」

「オレは世界一の幸せ者だ」ってんだよ、お前らのおかげでな。分ったか？」続けて「どくだ、こんなに腹も凹んだぞ。これで近所の女性どもがオレを放つとかないだろ？」

どうして、オヤジがプロレスラーに、と思った瞬間、花菜がワインクをよこした。花菜がオヤジに話したのか、オレの言ったことを、どうなっているんだ、この家族は。学はもう笑うしかなかったが、今夜の焼酎はいつにも増して美味しかった。

25度
好評発売中



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2986番地12
09667(65)0251



2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造は、この感動を伝えています。



the most beautiful villages in japan

喜界町
KIJIMA

「腰回り」に乾杯!